

日化協 SDGs 事例集 2019\_\_住友化学㈱  
マラリアなど熱帯感染症防除製品  
-オリセツト®ネットの開発と貢献-

住友化学のオリセツト®ネットは、2001年に世界保健機関（WHO）から世界初の長期残効型蚊帳として、マラリアに悩む国や地域でその使用が推奨されました。石油化学と健康・農業関連事業の技術の融合によって生まれたマラリア撲滅に貢献するハイブリッド製品です。

現在は、タンザニア、ベトナムで製造され、マラリアに悩まされる約 100 カ国に供給されています。

今回は、営業担当の生活環境事業部・グローバルマーケティング部 チームリーダーの渡邊さん(右)と技術開発担当の生活環境事業部・開発部の庄野さん(左)にオリセツト®ネットのお話を伺います。



開発者の探究心、発想の転換、そして実現する力が、  
オリセツト®ネットの誕生に大きく貢献！

日化協：

オリセツト®ネットが、マラリア・コントロールに活用されたきっかけをお教えてください。

庄野さん：

住友化学は、以前からスミチオンなどの殺虫剤成分を製造していました。スミチオン®は、1970年 半ばに、マラリア・コントロールの屋内残留散布剤として WHO から推奨されるようになり、アフリカ、中南米、アジアなどの地域に向け、日本政府の援助を通じて供給していました。

日化協：

約 40 年前からマラリア・コントロールに貢献されていたのですね。スミチオン®の提供から、長期残効型蚊帳であるオリセツト®ネットの提供になったのは、いつごろですか？

庄野さん：

1995 年頃です。蚊帳に殺虫剤を処理して、マラリアを媒介する蚊を防ぐというアイデアは、住友化学が考えたものではなく、1980 年前後に欧米の研究者達から出されたアイデアなのです。

日化協：

この様なアイデアを、御社ではどう具現化したのでしょうか？

庄野さん：

当時研究部門に所属していたオリセット®ネットの発明者である伊藤高明は、1984年にベクターコントロール(感染症を媒介する害虫の防除)に関する研究部門と事業部門のメンバーを集めて、プロジェクトチームを立ち上げました。

プロジェクトチームは、スミチオン®に次ぐ新たなマラリア・コントロール手段を探索するため文献調査にも力を入れました。その結果薬剤を直接塗布して殺虫する(屋内残留散布剤)、幼虫を防除する、蚊の生息場所に薬剤を散布する(空間噴霧)、蚊に刺されない環境をつくる(蚊帳)などの手段があることが分かりました。

一方で、1980年後半、当社の子会社では、工場の防虫用途として、残効性に優れるペルメトリンという殺虫成分を練りこんだ網戸を開発していました。それを知った伊藤が、ペルメトリンを練りこんだ糸を使って蚊帳を作れば、長期間にわたり殺虫効果を保ち、何年間も使い続けられる製品が作れるのではないかと開発研究を続け、実現したのです。

日化協：

他部署の事例から、発想の転換ですね！

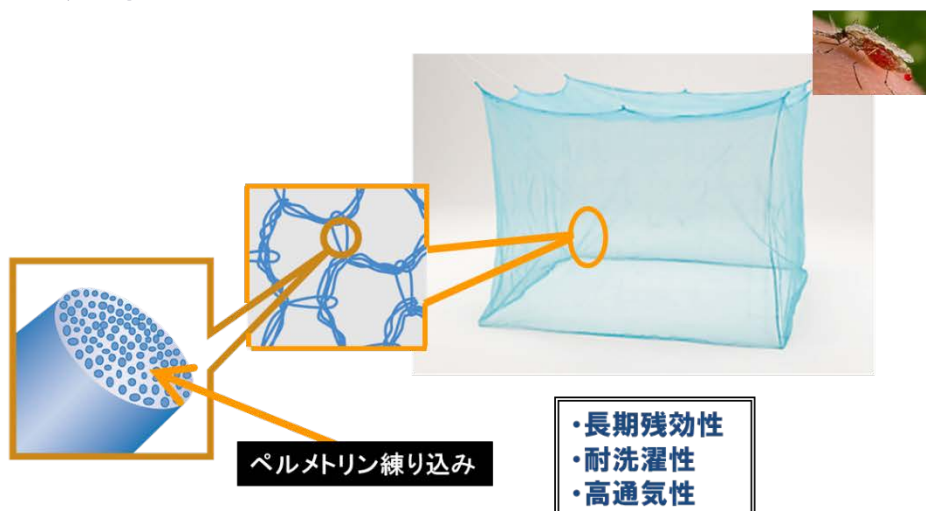
とはいえ、工場用の網戸の素材から蚊帳に仕立てるには、技術的な変更点が沢山あったと思いますが、、

庄野さん：

そうなのです。網戸と蚊帳は、基本概念は一緒ですが、網戸の素材を、蚊帳としてそのまま使用することはできません。ポリエチレンの繊維の中にペルメトリンを練りこんで、徐々に薬剤が染み出てくるように糸の太さを変え、洗っても有効成分が流れ落ちないように、蚊帳に適する技術を磨き上げていきました。

例えば編み方ひとつにしても、蚊帳は網戸よりも目が粗いのです。しかも、ただ粗くすればいいというものではなくて、蚊が通るか通らないかぎりぎりの目の粗さが大切になります。また、熱帯の気候で使うため、風通しを良くするなどの設計も大切になります。

## 初の長期残効型蚊帳LLIN(Long Lasting Insecticidal Nets) としてWHOから推奨



**日化協：**

技術の研磨に加え、こういった使用環境にあわせた製品設計の改良が、オリセット®ネットが多くの人たちに支持されている理由ですね。そう言えば先ほど、オリセット®ネットは洗っても殺虫効果が落ちないという話がありました。。。

**庄野さん：**

それが、最大のポイントなのです。オリセット®ネットが流通する前は、蚊帳と殺虫成分入りの液体を一緒に配って、数カ月に 1 回の頻度で蚊帳をその液体に浸すという形で使ってもらっていました。そのため、蚊帳を洗濯すると殺虫効果はなくなり、洗わなくてもその効果はせいぜい半年程度しか持続しませんでした。また、スミチオン®のように壁に撒く残留散布剤は、3~4 カ月に 1 回は散布する必要があるので、薬剤も新たに買わなくてははいけません。

つまり、当時は、蚊帳の糸の中に殺虫成分を練りこんで長期間の使用を可能にするという発想がなかったのです。しかし、オリセット®ネットは洗濯しても効果が続き、薬剤に浸す必要もありません。殺虫成分の有効期間が長いということは、1つの蚊帳を長く使用することが出来るのです。そうすると、新たに薬剤を買う回数が少なくなり、蚊帳の使用者から見れば、マラリア・コントロールのトータル・コストが安くなります。オリセット®ネットは、20 回洗濯しても効力が持続することが確認されています。実は、5 年間も効果が継続したという科学者が分析したデータもありますよ。

### 東アフリカへ出荷される蚊帳の物流コスト、納期を考えたら、 タンザニアで製造されるオリセット®ネットによるメリットは大きい！

**日化協：**

現在の WHO によるマラリア・コントロールの手段は、蚊帳のみですか？

**庄野さん：**

圧倒的に蚊帳で、全体の 7~8 割を占めます。

**日化協：**

蚊帳の粗悪品やコピー品が出てくると思われますが、その対策はなされているのでしょうか？

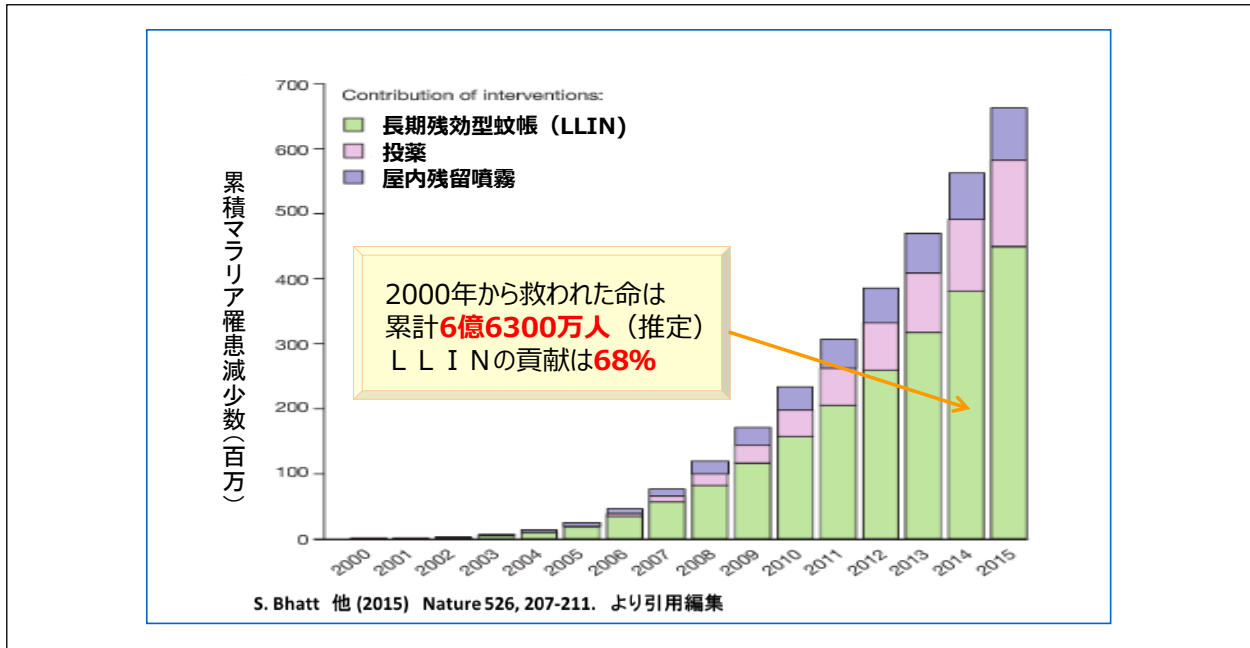
**庄野さん：**

基本的に入札制で、WHO の承認がないとその入札に参加できませんから、粗悪品はありません。しかし、WHO は、決められた予算内で蚊帳をたくさん配るため、コストを重視し、コピー品も簡単に認可することがあります。幸い、オリセット®ネットのコピー品はまだ出ていませんが、他社品のコピー品はたくさん出ていますよ。

**渡邊さん：**

WHO の推奨品であれば、基本的に WHO の承認を受けている蚊帳と捉えられます。入札などで何百万張といった大規模な数量が各国に供給されるので、当然のことながら蚊帳自体の価格は安いほうがいいのです。

安く買うことができれば、配布できる蚊帳の数も増える、、、。こういった状況では価格面の競争が熾烈化し、当社も事業としては苦しくはなっています。オリセット®ネットが製品として優れていたとしても、性能よりも価格そのものが重視される傾向にあるのです。



#### 日化協：

入札基準に、社会的責任を果たしている企業かなどの評価もあれば、各国の状況に応じて選択できてよいでしょうね。

例えば、使用国やその周辺国で生産し、現地住民を雇用しているなど、、オリセット®ネットは、アフリカ・タンザニアで製造、現地の人を雇用していますし、、

#### 渡邊さん：

そうですね。公平性の観点から、一部の企業にのみ該当する基準を設ける訳にはいかないと思います。しかし、コストは、製品価格だけでなく、蚊帳を必要とする場所に運ぶこともふくめて考慮してもらえるといいです。

タンザニアには当社の工場があるので、アジア地域やインドで蚊帳を製造する他社に比べて、タンザニアの近隣諸国に対して早く製品を提供できます。しかも、製品自体の値段が高めでも、当社工場の立地は、ランデットコスト（他国から商品や積荷などが輸入され、買い手の元に到着するまでにかかる費用）も抑えられるため、オリセット®ネットに競争力があると思います。そういう意味では生産場所の利点があります。ただ、アフリカ大陸の西側の地域にオリセット®ネットを運ぶ時には逆に不利になります。アフリカ大陸内の道路が整備されていないこともあり、西側への輸送には相応の時間とコストがかかり、アジア地域やインドから運んだ方が早く、かつ安い、となりかねない現実があるのです。

#### <オリセット®ネットの特長>

- ・薬剤が蚊帳に練りこまれているので、3~4ヶ月毎に薬剤を含浸させる手間がない
- ・汚れたら、洗って使える（20回の洗濯でも、効果変わらず）
- ・タンザニアで生産する蚊帳は、タンザニア近隣諸国へは輸送時間が短く、物流費用が抑えられる

**オリセット®ネットは、必要とされる人々に届いてこそ  
通関や輸送上の問題発生時など、現地法人によるサポートがあるからできる**

**日化協：**

オリセット®ネットの寄付などの際には、アフリカ奥地に運ぶ輸送問題の他に、通関の問題があり、その解決にアフリカの現地法人の皆さんの貢献は大きいと伺いましたが、、、

**渡邊さん：**

各国際機関が購入した蚊帳や寄付による蚊帳を提供する場合は、基本的には、当社ではなく資金提供側であるユニセフやグローバルファンドなどが輸送の手配をします。物流費用が意外とかかるため、ユニセフでは、蚊帳の価格に物流費用も含めて、どの会社の蚊帳を購入するかを判断しています。

しかし、アフリカのインフラが整備されていない奥地に蚊帳を届けるとなると、さまざまな想定外のことが起きます。例えば、何カ国も国境を越えて内陸国に届ける場合は、国境を越える際の通関が問題となることがあります。国際援助で入る蚊帳なので、通常であれば免税対象になるのですが、その手続きがトラック到着時に間に合っておらず、通関で非常に時間がかかるといったことなどはよく起こります。

ですから、現地の輸送を担当する物流業者と事前に十分な連携をとっておかなければなりません。当社の現地法人やコンサルタントにも情報を収集してもらい、問題解決にあたっては必要に応じてサポートしてもらっています。

**事業の進出と継続成功の鍵は、パートナーの技術力と彼らとの信頼関係。  
雇用創出に、現地の子どものための教育の場の提供も！**

**日化協：**

アフリカ大陸の東側にあるタンザニアに事業進出し、現地の雇用や経済に貢献していますが、西側地域に事業進出する予定は？

**渡邊さん：**

残念ながら、ありません。以前は、ナイジェリアなどに工場を作る話もありましたが、アフリカではパートナーの選出や事業性の面で厳しいものがあります。新しく工場を作り、一から立ち上げるのは大変です。

アジアでは、オリセット®ネットの製造拠点としてベトナムを選定しました。ベトナムの工場は、住友化学の資本が入っていない製造委託先です。他社品との価格競争になっている状況ですから、事業性を継続していくことにも苦勞しています。

**庄野さん：**

タンザニアに工場を作った際には、WHO の専門家の仲介があり、いいパートナーに巡り会えました。パートナーである AtoZ 社は、オリセット®ネットの生産をしっかりと継続してくれています。同社は、プラスチックの成型を生業にしていた会社で、バケツなどの簡単な生活用品をプラスチックで作っていたので、プラスチック成型の基礎がありました。

日化協：

タンザニアのパートナーが、オリセツ®ネットの製造を通して住友化学の技術を学ぶことにつながったのです。同時に、住友化学が教育支援を行っている場所でもありますよね？

庄野さん：

オリセツ®ネットのビジネスで得た利益の一部を、小学校の建設資金として提供するなどの教育支援を行っています。2005年から開始し、アフリカ12カ国で25プロジェクト、1万5千人を超える子供たちの教育環境の改善に貢献しています。



## 教育支援

収益の一部で教育支援。  
アフリカ12か国で総受益者数  
15,000人超。

4 質の高い教育を  
みんなに



## 雇用・ ジェンダー平等

現地生産により、最大7,000人の  
雇用を創出！  
女性の就業環境整備。

8 働きがいも  
経済成長も



5 ジェンダー平等を  
実現しよう



日化協：

ベトナムの委託先も素晴らしいビジネスパートナーと伺っています。タンザニアの工場は、日本の技術をほとんど移転したとのことですが、ベトナムの委託先ではいかがですか？

庄野さん：

ベトナムでも高い技術力を持つ、よい製造委託先と出会うことができました。当初は、原料の樹脂ペレットを日本で製造し、先方が紡糸以降の工程を行っていましたが、現在では、タンザニア、ベトナムに樹脂ペレットの製造工程も移管し、全ての生産を現地で実施しています。

日化協：

パートナーとの信頼関係があるからこそ、、、パートナーにも技術力があれば任せる工程も増えますよね。ペレットを運ぶのもコストが掛かるから、蚊帳の加工拠点に紡糸や樹脂ペレット製造工程があった方がいいし、パートナーも技術力を伸ばす機会となった、、、ということですね。パートナーにとっても、ビジネスに広がりが見られる関係なのですね。

## オリセット®ネット製造時の作業や環境への配慮は、住友化学の基準！

日化協：

タンザニアやベトナムでの労働安全衛生や環境安全などの取り組みはいかがですか？

成形工程で熱も発生しますし、殺虫剤の成分の取り扱い方法等には教育の必要があると思いますが、どの様に対応していますか？

庄野さん：

本来、繊維やプラスチック製品のみを扱う工場に、初めて殺虫剤を持ち込むわけですから、取り扱いの基準づくりから製造スタッフの教育啓蒙まで、一から立ち上げる必要がありました。工場内で実際にばく露量を測定し、工場従業員が安全に作業できるように作業条件の制限や保護具対策を講じるとともに、周辺の環境に対する影響の測定や、排水の管理方法なども決めました。

タンザニアの工場立ち上げ時から2010年までは、日本から住友化学の社員が長期出張で現地に滞在し、現地従業員に教育を実施しながら日本と同様の高いレベルの安全や環境に配慮したオリセットネットの生産管理体制を作り上げました。

日化協：

生産管理では現地に人を派遣してフォローされていたのですね。海外進出して長く根付かせる意味でも大切な取り組みですね。

### タンザニア工場は、SDGs 以前の MDGs 時代からの取り組み



#### ミレニアム開発目標 MDGs

- 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 初等教育の完全普及の達成
- ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- 乳幼児死亡率の削減
- 妊産婦の健康の改善
- HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
- 環境の持続可能性確保
- 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

**マラリア撲滅には、複数の対策で対処するのが効果的！**  
**自社だけでなく関係機関とも情報共有・協働して達成していくことで、**  
**事業の守りも攻めも可能になる**

**日化協：**

各国際機関を通じての蚊帳の寄付に加え、アフリカなどではオリセット®ネットの素材をドアや窓用カーテンとして販売するなど、蚊帳以外の用途拡大や販路拡大にも取り組んでいると伺いました。

**庄野さん：**

蚊帳は、各地の生活様式に合わせコニカルなどいろいろな種類があります。

**渡邊さん：**

ドアカーテンや窓用カーテンとしての販売活動は、ケニアの低所得層に対してプロジェクト化しましたが、事業の継続性という意味では難しかったです。現地では、無料で蚊帳が大量に配られるため、ドア用や窓用カーテン販売は事業としては成り立たないことが分かりました。無料でもらえるため、自ら1張1ドルでも出して買うといった購買行動にはならないのです。

**日化協：**

援助品としての無料配布は、もしかしたら生活習慣に合うような商品提供や事業化の障害になっている部分もありますね。低所得層などには、より予防になる商品があったとしても、無料には勝てないのですね。

**渡邊さん：**

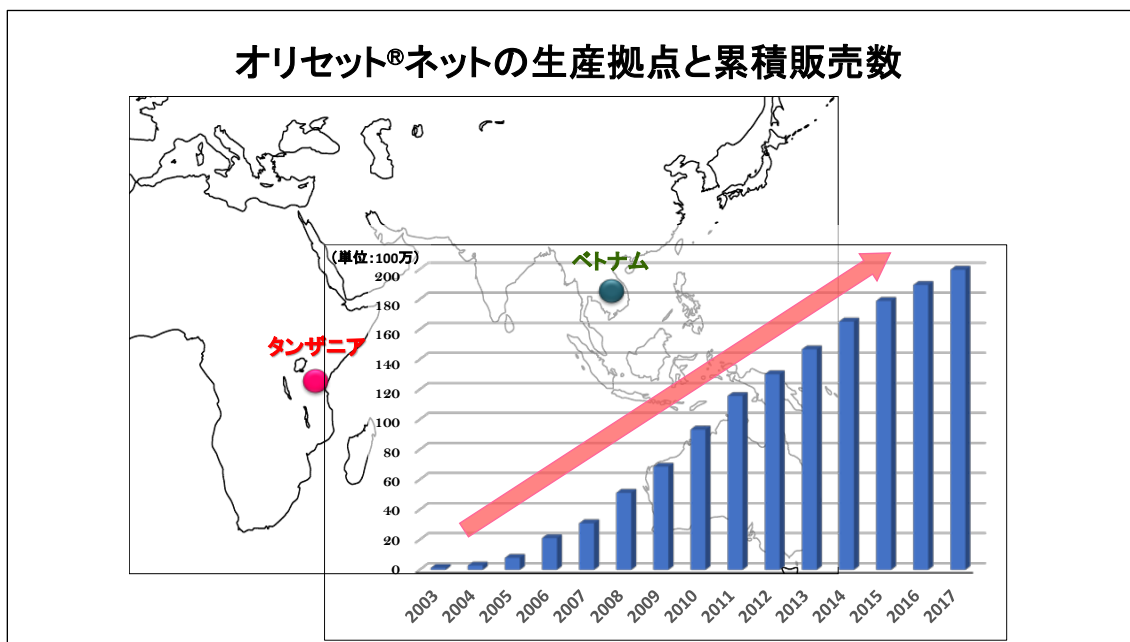
そうですね。生活が苦しい人達の立場で考えると、無料で配られるものがあれば それを使うでしょうし、、、。しかし、今後生活水準が上がってくると、ニーズや意識も変化するかもしれません。

**日化協：**

これまでに、オリセット®ネットは、どの位提供されていますか？

**渡邊さん：**

2017年までに約2億張を出しています。国数だと約100カ国になります。





**日化協：**

マラリア予防に関して、蚊帳、屋内残留散布剤などの製品の他に、殺虫成分の薬剤抵抗性の問題には、どう取り組まれていますか？

**庄野さん：**

ピレスロイド系(ペルメトリン)の殺虫成分を練り込んだオリセット®ネットは2億張、他社の蚊帳も入ると10億張が供給されてきました。アフリカでは、その成分に抵抗性を持つ蚊が出てきており、2000年代後半から一部の地域で殺虫成分の効力が低下しているとの報告が出され始めました。

これには、オリセット®プラスという蚊帳で対応しています。ペルメトリンの効果を高める薬剤(それ自身には殺虫活性はない)を加え、2009年に開発、2012年に上市しました。抵抗性が出ている地域において、オリセット®プラスがオリセット®ネットに比べて高いマラリア感染予防効果があったという大規模試験のデータが、世界で最も権威がある医学雑誌「ランセット」に報告されています。

**日化協：**

薬剤抵抗性への対応は、マラリア・コントロールの継続性にもつながりますが、住友化学の新たな技術の活用やオリセット®ネットなどを正しく長く使って貰うことが、重要になりますよね。

**庄野さん：**

あくまでも、オリセット®プラスは既存品の改良です。これからは、全く新しい薬剤の開発が重要です。ピレスロイド系のペルメトリンやデルタメスリンなどの同じような系統の成分では、一つの薬剤に抵抗性が発現すれば、同系統の有効成分も効かなくなってしまうからです。

全く新しい有効成分を開発することは、莫大な費用と10年近い年月がかかります。また、蚊帳だけで完全にマラリア感染を予防するのは難しいので、壁に塗布する屋内残留散布剤での対応も合わせて普及させていきたいと考えています。

例えば、ピレスロイド系の殺虫成分が練りこんである蚊帳に蚊が触れると殺虫される、もしくは吸血できない状態になります。その殺虫成分は、人に対する安全性が非常に高いので、ピレスロイド系の殺虫成分ばかりが使われる傾向もあり、マラリア蚊への薬剤抵抗性の問題が生じます。

一方、屋内残留散布剤を壁に

**第2世代のLLIN  
「オリセット® プラス」 上市**



OlysetPlus® Polyethylene

Biologically effective external dose of permethrin + PBO

Internal permethrin + PBO reservoir

**室内残効性スプレー (IRS)  
「スミシールド™ 50WG」  
WHOによる認証を取得  
(新認証制度後初)**



「IRS」: Indoor Residual Spray  
「LLIN」: Long Lasting Insecticidal Net

**総合防除 (IVM)**



まく方法も、蚊によるマラリアの媒介を防止することに有効です。なぜなら、蚊は、人の血を吸って満腹になると必ず壁に止まるのです。家の壁に残留散布剤を撒いておけば、壁に止まった蚊は死ぬので、人にマラリアを感染させることはなくなります。

蚊帳と屋内残留散布剤の基本的な効能の違いは、蚊帳は蚊の吸血から人を直接守ることに特化し、残留散布剤はマラリア患者から吸血した蚊を殺虫して次の患者を出さない様に特化していることです。

昨年、住友化学では、ピレスロイド系でない屋内残留散布剤の「スミシールド™」を上市することが出来ました。これまでのマラリア・コントロール用殺虫剤と異なる作用性を有しており、WHOの推奨も受けました。

**日化協：**

そうすると、屋内残留散布剤の「スミシールド™」は、マラリアの罹患が多い地域に提供していくとよいですね。

**庄野さん：**

そうです。蚊帳と併用すれば、なお効果は高まります。あくまでも、メインは蚊帳ですが、薬剤耐性の問題が出てきていますから、この屋内残留散布剤と合せてマラリアに対応してもらいたいと思います。

#### 住友化学のマラリア・コントロールに使用される WHO 推奨製品とその特長

##### <蚊帳「オリセツ®ネット」>

マラリア蚊に刺されない環境を提供する

##### <スプレー剤「スミシールド™」>

壁に止まったマラリア感染の蚊を殺虫するため、新たな感染患者を出さない  
薬剤抵抗性のある蚊の殺虫にも有効

**日化協：**

ビルゲイツ財団は、マラリア・コントロールに積極的に資金援助していると聞きましたが、住友化学は彼らとコラボしていますか？

**庄野さん：**

間接的にコラボしています。

ビルゲイツ財団は、新しいマラリアのベクターコントロールのツールを開発する機関に多額の資金を提供しています。イギリス・リバプール大学を拠点にした製品開発組織である IVCC にも、ビルゲイツ財団は年間 100 億円の資金提供をしています。住友化学は、スミシールド™ 開発の最終段階で IVCC から援助してもらいました。

ベクターコントロールは、利益が上がりづらい取り組みになるので、企業としては全て独力で開発するのは大変なことなのです。住友化学はもちろん、バイエル、BASF なども、IVCC などから資金援助を受けながら、ベクターコントロールのプロジェクトを実施しています。

資金面だけでなく、こういったプロジェクトに加わることで、さまざまな情報も入手でき、対外的なアピールにもなっていると思います。

**アフリカでのビジネス展開の難しさは、経験済み  
技術を活かして、デング熱対策や家庭用虫よけにも貢献！**

**日化協：**

既にオリセット®ネットが無償配布された現地でのオリセット®ネットの販売ビジネスの難しさや、今後のビジネス展開があれば教えてください。

**渡邊さん：**

オリセット®ネットの小売りビジネスについては、現地のスーパーなどを通して、2012年頃からケニアで行っています。オリセット®ネットのネームブランドを活用して、小売用として「オリセット®クラシック」と名づけました。蚊帳の組成は全く一緒ですが、サイズやデザインも少し変えた虹色の展開で、中所得層より上の所得層を狙ったビジネスになります。また、ケニア以外の他国へも同じような展開をできるか、アフリカの東側に加え西側のセネガルなどで展開を試みました。

アフリカの場合は、現地のどのようなパートナーと組むかが鍵になり、現地のニーズをしっかりと拾い上げることも重要になります。ケニアの場合でも、初めての市場参入時は、事前に、どういう製品が好まれ、どういうサイズの蚊帳が現地の家に合うかなどさまざまな調査を行いました。しかし、実際にビジネスを始めてみたら、実態と違っており、売れると思っていたサイズや色の蚊帳が全く売れませんでした。このような経験から、アフリカでのビジネスの難しさを学びました。オリセット®ネットがスーパーなどで販売されていることは認知されているものの、小売ビジネスで継続的な事業として利益を出すのはなかなか難しい状況です。



**日化協：**

マラリアにオリセット®ネットが有効なように、オリセット®ネットのような蚊帳で他の感染症予防に有効な展開はいかがですか？

**庄野さん：**

2014年に日本でも流行したデング熱も、同じように蚊が媒介しますが、昼間に刺す種類（マラリアを媒介する蚊は夜に刺す）なので、蚊帳の有効性が発揮できないのです。

しかし、デング熱の患者数は、東南アジアや中南米を中心に4億人という億単位の規模ですから、感染を広げないためにも蚊の媒介に対する対策が大切です。オリセット®ネットと同様に、樹脂から薬剤が染み出すという技術を使い、蚊の幼虫であるボウフラの発生源にその樹脂を入れ、ボウフラの防除対策に展開しています。この樹脂にはスミラブ®という薬剤が入っていて、デング熱媒介蚊対策剤としてWHOから一昨年（2018年）に推奨を取得しました。今年から、実際に販売を開始します。

**日化協：**

ボウフラの発生源である生息場所に処理して、蚊の発生を無くしてしまうのですね。

**庄野さん：**

はい、そうです。デング熱を媒介する蚊は、主に人家の近くの水瓶や貯水タンクから発生するので、そこに処理します。スミラブ®は、ボウフラは殺虫しませんが、その後のステージである蛹から

成虫(蚊)になる段階で生育をストップさせ、蚊の発生を防ぎます。

他にも、蚊をターゲットとした殺虫成分の中には、他の昆虫に有効な殺虫成分もあり、原体メーカーとしての技術、樹脂、情報など全てを組み合わせ、昆虫が媒介する病気の防除も達成可能です。その事例として、日本で販売されている玄関などに吊るす虫除けはご存知ですか？

**日化協：**

はい、我が家も玄関に吊るしています。多くの家庭に広がっているようですね。

**庄野さん：**

あの製品は、住友化学が開発した蒸散性を持つ新しいピレスロイド系の殺虫成分を樹脂に含浸させ、徐々に散布させるという新しい製品分野に仕立てました。

この技術は、日本に限らず先進国での展開がメインですが、特に途上国においてはコストを下げることも検討しながら、途上国のデング熱やマラリアを媒介する蚊のコントロールに使えないかという試みを少しずつ始めています。価格をなるべく低く抑えつつ、薬剤効果の期間を延ばす必要があるなどの課題がありますが、模索はしていますよ。

**日化協：**

身近なところでは、オリセット<sup>®</sup>ネットの技術や住友化学の薬剤開発の強みも活かされていたのですね。

本日は、貴重なお話をいただきありがとうございました。

(本インタビューは、2018年5月9日に、住友化学(株)本社にて行われました)

### 【住友化学 渡邊さんから、インタビューを終えて】

オリセット<sup>®</sup>ネットのような最終製品を製造・販売する事業は住友化学にはほとんどなく、事業として継続させることの難しさをさまざまな経験を通して学ぶことができました。アフリカにも何度も足を運びましたが、現地のニーズをしっかりと把握することの大切さを痛感するとともに、当社が考える製品価値と現地で求められている価値とをいかにマッチさせるかが大きな課題だと感じています。厳しい事業環境ではありますが、住友化学の多様な研究・開発力を発揮できる分野であり、マラリア撲滅を目指してベクターコントロール分野におけるリーディングカンパニーであり続けたいと思います。

### 【住友化学 庄野さんから、インタビューを終えて】

マラリアやデング熱などの昆虫が媒介する疾病は、現在の日本ではあまり問題となることはありませんが、アフリカや東南アジア、中南米などの熱帯、亜熱帯地域では、依然として深刻な問題です。住友化学はハエ、蚊、ゴキブリなどを防除する家庭防疫用殺虫剤のトップ原体メーカーとして、長年この問題に取り組んできました。当社が持つ殺虫剤と樹脂などの技術が融合し開発されたオリセット<sup>®</sup>ネットは、21世紀に入ってからの世界のマラリア患者の大幅な減少に、少なからず貢献できたと自負しています。今後も総合化学メーカーの強みを活かして、新たな製品を開発し昆虫が媒介

する病気を減らすことにより、SDGsの達成に寄与できればと考えています。

### 【日化協 SDGs 部会事務局 五所から、インタビューを終えて】

今回は、住友化学様に、『人々の健康』に加え、『持続可能な社会の構築』にも貢献しているオリセット®ネットの様々な取り組みを忌憚なくご紹介いただきました。マラリア撲滅という課題に対して、SDGsという言葉がない40年前から取り組んできた事例です。

感染症対策事業を通じた「薬剤抵抗性の問題に取り組む」、「薬剤の特徴を踏まえた多様な製品ラインナップを揃える」、「外部国際機関と連携し効率的な開発を行う取組み」などでは、持続可能な製品開発のあり方を、私たちに改めて示してくださいました。また、オリセット®ネットを現地で製造する際には、「現地住民を雇用」、「環境や安全に配慮した事業活動」、「従業員教育」、「製品製造のための技術指導」を行う一方で、会社の利益の一部を「将来の世代を育てるための学校建設」に使うなど、ビジネスパートナーなどのステークホルダーと共に持続的に発展していくプロセスもみせてくださいました。これらは、現地の『経済的な自立（貧困問題の解決）』と『よりよい社会の形成を促す活動（新たな産業の創出など）』に役立ち、社会の持続可能な発展につながる活動です。

日化協では、「SDGs達成を目指す活動は既存の企業活動や事業活動の中にあり、新たなものでない」と捉えています。特に日化協会員の皆さんには、「SDGsという言葉を使っていないが、事業を進める上で同じ様に／同じ様な事に取り組んでいるよなあ」などとインタビュー記事から振り返っていただけたら、幸いです。

### 【住友化学株式会社の基本情報】

事業部門： 石油化学、エネルギー・機能材料、情報電子化学、健康・農業関連事業、医薬品

従業員数： 6,005名【連結：31,837名】（2018年3月末現在）

総売上高： 2兆1,905億円（2018年3月末現在）

オリセット®ネット： マラリア防除用長期残留型蚊帳

オリセット®ネットの種類： オリセット®ネット、オリセット®プラス

オリセット®ネットの製造工場： タンザニア、ベトナム

オリセット®ネットの供給・販売国・エリア： 99ヶ国・地域

オリセット®ネット関連の取得国際規格： ISO9001